



## 保育分野 子どもと共に育つ(教科書 P34～)

日々めざましく変化していく赤ちゃん。その発達を見守る者もまた、子どもと共に育っていく。

子どもの育つ力を理解するとともに、親となったとき、あるいは地域や社会の一員として、子どもとどう関わり、育んでいくか、考えていこう。

寝返って

はいはいしたら

もう立った

オレンジリボン

虐待から子どもを

守ります

生まれたよ

最初の四週

「新生児期」

アー ブー バー

赤ちゃんの声

「喃語」だよ

幼稚園

いつの間にか

こども園

ミルクだけ

そろそろ腹減り

離乳食

ママ大変

ワンオペ育児

つらすぎる

う



あ



み



お



お



あ



ね



あ



保育

・子どもの育つ力(心の発達)

3~4か月になると「アー」、「ブー」というような「喃語」と呼ばれる音を発し始める。

乳児の喃語に応じて大人が話しかけるこのやりとりが、後の言葉のやりとりへと繋がっていく。

う



保育

・子どもの育つ力

生まれてから最初の4週間を「新生児期」という。

◆子どもの発達過程

誕生~4週間 新生児期

1歳頃までを 乳児期

1歳頃~6歳頃を 幼児期

6歳頃~12歳頃 児童期(小学生)

乳幼児期の最初の6年間は、人間の基礎がつくられる大切な時期である。

お



保育

・これからの保育環境

「オレンジリボン運動」は、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。

# ね

保育  
・子どもの育つ力(身体運動能力の発達)

乳児期の1年間は、人間の一生の中でも成長が大きい。

運動能力の発達も目覚ましく、

首がすわる  
寝返る  
座る(腰がすわる)  
はう  
立ち上がる

といった発達の順序を経て、1歳頃には自力で歩行するようになる。



# ま

保育  
・これからの保育環境  
「ワンオペ育児」



「ワンオペ」とは「ワンオペレーション」の略で、コンビニエンスストアや飲食店で行われていた1人勤務のこと。1人で全てをこなす過酷な状況から、それを行っていた企業がブラック企業だとして社会問題となった。こうしたブラック企業の「1人で全てをこなす」状況と近いことからネットを中心にこの言葉が使用されるようになった。

配偶者の単身赴任など、何らかの理由で1人で仕事、家事、育児の全てをこなさなければならない状態を指す言葉である。母親1人を指す場合がほとんどである。

# み

保育  
・子どもの生活と保育(子どもの食生活)

乳児(1歳頃まで)の食生活は  
乳汁栄養期 と 離乳栄養期 に分けられる。

乳汁栄養・・・母乳、人工栄養(調整粉乳)  
※2018年に国内生産、販売が認可された乳児用液体ミルクは、調乳せずに赤ちゃんがそのまま飲める製品です。粉ミルクより価格は高いものの災害時や、外出時には便利な製品といえます。

5～6か月になると乳汁だけでは栄養が不足するため、「離乳食」を与えて必要な栄養を確保する。



# よ

保育  
・これからの保育環境

どうして「認定こども園」が出来てきたのでしょうか？



1日4時間しか預かれない幼稚園は、専業主婦の母親がいる場合が多かったのですが、現在では共働き夫婦が増え、幼稚園に入園する子どもの数が減っています。少子化が進めば、いずれ幼稚園が運営できなくなると考えられています。

一方、都市部の保育園は満員で入園を待っている「待機児童(たいきじどう)」が大勢います。

幼稚園と保育園の違いをなくし、「幼稚園の子どもが減っている」と「待機児童」の問題を、一気に解決しようと考えられたのです。